

フォレストアートフェスティバル(FAF) イン ラダック 2026
開催趣意書

ウォールアートプロジェクトは2023年、北インド、ラダックにおいて地元の人々と共に6100本のヤナギなどの苗木（成長後、建材として活用される）を植樹し、木を植えることから始まる芸術祭「フォレストアートフェスティバル（FAF）」をスタートしました。

氷河の融解、雨量の増大など温暖化の負の影響を強く受けるヒマラヤ山脈のラダックでは、対策として植樹への取り組みが盛んです。FAFは、アートを媒介にして植えた木々の成長を森になるまで長いスパンで見守ることを目的としています。

2024年には、彫刻家・富松篤氏が流木の彫刻を制作し植樹地に設置。浅井裕介氏は植樹地を取り囲む3つの地上絵を制作しました (<https://youtu.be/RqR8e9GE3-I?si=LZa3QSKO6u5ODKtU>)。

第3回目となる本事業では、2024年に続く取り組みとして、日本とラダックのアーティストを招聘、2週間強の滞在中に、地上絵の修復、新たな作品の制作と現地の子どもたちへ向けたワークショップを実施します。完成した作品を、2017、23、24年に制作された10の作品と共に芸術祭として展示し、関係人口を拡張していきます。共催にラダックでの文化保全と現代アート普及を30年に渡り推進するLadakh Arts and Media Organisation(LAMO)を迎え、日本のアーティストたちの作品とメッセージを広く伝え、アーティスト同士の交流をより深めます。

制作期間 2026年5月24日～6月5日

芸術祭一般公開日 2026年6月6日（土）、7日（日）

開催地 インド、ラダック連邦政府直轄領、マトー村およびレーのアートスペース LAMO

主催 特定非営利活動法人ウォールアートプロジェクト

共催 Ladakh Arts and Media Organisation (LAMO)

協賛 貝印株式会社 KAI INDIA ポーラスター株式会社 有限会社ブルーベア ツォモリリ文庫

招聘アーティスト

富松篤（彫刻家）

2024年にラダック、マトー村の流木で制作したヤク像「導きの森 The Guiding Forest」は、今現在も植樹地の真ん中で木々の成長を見守り、そこを訪れる人々の注目を集めています。この度のFAFでは、村の公立学校の協力を得て、子どもたちへのワークショップを開催。村を流れる川で収集した流木を利用し、参加者全員で一体の生き物を作ります。完成後は植樹地に設置して、ヤクと同様、植樹地を見守る存在となります。



プロフィール

1985年和歌山県生まれ。彫刻家。東京造形大学大学院造形研究科修了。木彫の人物像を中心に制作。2016年宮城県石巻に制作拠点を移す。牡鹿半島の浜に漂着した流木の造形に惹かれ、流木を用いた作品を制作。

主な個展、グループ展

- 2025 富松篤 個展「森のまなざし」（ツォモリリ文庫 / 東京）
- 2025 Baggat Art Exhibition 2025（韓国）
- 2024 富松篤 個展「森に還る日」（ツォモリリ文庫 / 東京）
- 2023 富松篤 個展「想起するかたち」（GALVANIZE galley/ 宮城）
- 2021 富松篤 個展「漂着する存在の記憶、かたち」（GALVANIZE galley/ 宮城）

芸術祭

- 2025 阿久根うみまち芸術祭（鹿児島）
- 2024 Forest Art Festival in ラダック 2024（ラダック / インド）
- 2023 信濃の国 原始感覚美術祭 -2023 山のしずく、ささなみの水（木崎湖 / 長野）
- 2022 第5回かがわ・山なみ芸術祭 2022（綾川町 / 香川）
- 2019 Reborn-Art Festival 2019（石巻のキワマリ荘 / 宮城）
- 2017 Reborn-Art Festival 2017（荻浜小学校 / 宮城）

招聘アーティスト

浅井裕介および地上絵制作チーム（美術家）

2024年に植樹地を見守る存在として制作した全長280メートルの地上絵は、現地で建材として使われている日干しレンガに、祈りのチョルテンなどに施される石灰水をかけて白い姿を浮き立たせています。チョルテンは年に一回塗り替えることからわかりますが、地上絵も風雪の中、次第に色をなくしていきます。人々に愛される存在となっている地上絵は、2年に一回の割合で人々の手を入れ、蘇らせます。同時に浅井氏の指導のもと、布絵のワークショップを開催。現地の土を使って制作された布絵の地上絵をさらに拡張し、新たな姿を登場させます。



地上絵を土の絵の具で描くワークショップの様子

プロフィール

1981年東京都生まれ。滞在制作する各々の場所で採取された土と水を使用し、動物や植物を描く「泥絵」や、アスファルトの道路で使用される白線素材のシートから動植物の形を切り出し、バーナーで焼き付けて制作する「植物になった白線」など、条件の異なったりいかなる場所においても作品を展開する。

インドの学校を舞台にした「ウォールアートフェスティバル」やアメリカ、フィンランド、中国など多数の国際舞台で活躍。

近年の主な個展

「浅井裕介展 星屑の子どもたち」（金津創作の森美術館、2024年）

「横浜美術館 新収蔵作品特別展示 浅井裕介《八百万の森へ》」（横浜美術館、2024年）

「浅井裕介—絵の種 土の旅」（箱根彫刻の森美術館、2015-2016年）

近年の主なグループ展

「積層する時間：この世界を描くこと」（金沢21世紀美術館、2025年）

「開館30周年記念 MOT コレクション 9つのプロフィール 1935→2025」（東京都現代美術館、2025年）

「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」（川崎市岡本太郎美術館、神奈川、2024年）

「A Spirit of Gift, A Place of Sharing」（ハンコック・シューカー・ビレッジ、マサチューセッツ、2022年）

「芸術在樵山—広東南海大地の芸術祭」（平沙島、広東、2022年）

2019年、横浜文化賞 文化・芸術奨励賞を受賞。

招聘アーティスト

小栗千隼（漫画家）

2017年にマトー村周辺の子どもたちと壁画「ワイルドローズ」を完成させた漫画家の小栗千隼氏。多くの村人の記憶に残るアーティストである彼が、今年度は、同じ学校の他の教室に子どもたちとおしゃべりしながら、小栗氏の持ち味である宇宙的なイマジネーションが広がるライブペイントを実施。たくさんの子どもたちの想いがそこに込められ、植樹した木々が森となり、広がっていくような壁画を完成させ、FAFをよりインタラクティブなアートプロジェクトにしていきます。



↑公開制作で描かれた壁画。下描きをせずに即興で、増殖させるように描く

プロフィール

おぐりちはや Chihaya Oguri

1992年生まれ。漫画家、イラストレーター。2014年「少年サンデーウェブ」にてデビュー。2021年には新潮社刊「月刊コミックバンチ」漫画賞にて奨励賞を受賞。手書きを駆使した丁寧な絵作りに定評がある。近年は漫画という枠組みに囚われることなく、独自の世界観を即興で描く壁画やライブペイントを手がける。著作に「スーパーセカイ人 1~3巻」、ガザ支援漫画「あの街に捨てたしっぽのはにゃし」、「はきちがえる自由」、「田舎コミュニティエクスタシー」。

2025 個展「スーパーセカイ人」（ツオモリリ文庫 / 東京）

2024 2人展「異世界散歩」（ツオモリリ文庫 / 東京）

招聘アーティスト

花田千絵子（ダンサー）

2024年のFAFで、標高3800メートルの高所であるにもかかわらず、植樹地でダンスを披露した花田千絵子氏。ラダックの伝統的な動きを取り入れたダンスが現地の人々の心に残っています。同時にマトーの学校でダンスのワークショップを開催し生徒たちと交流も果たしました。この度は、顔見知りの子どもたちとともに振り付けを考えることからスタートし、浅井裕介氏の地上絵とコラボレーションする団体の踊りをFAF当日に披露します。

プロフィール

北九州出身。6歳より18歳までモダンバレエを黒田呆子に師事。第4回北九州&アジア全国洋舞コンクールにて文部大臣賞受賞。学生時代は韓国・朝鮮伝統芸能グループノリパン（名古屋）にて杖鼓と伝統舞踊を学ぶ。雲南芸術学院にて少数民族舞踊を学ぶ。帰国後、コンテンポラリーダンス作品や演劇作品に出演。

2003年 ノリパン『祝祭の大地から』（名古屋公演）

2004年 ノリパン『ちくさノリマダン』（名古屋公演）制作・出演

『祝祭の大地から』（ソウル公演）制作・出演

2007年 北九州芸術劇場ダンスラボ2007『迷路のつくりかた』（振付・演出：高橋淳 junjunsience）

2008年 紫川水上劇場『紫・まれびとエビスー紫川物語ー』客演

2009年 horamiri『月の沙漠』客演

2010年 北九州のコンテンポラリーダンスカンパニーhoramiri所属、ダンス作品を制作し始める。

<http://t-etc.net/horamiri.htm>

2011年 セッションハウス Theater 21fes vol.85にて作品発表

2019年 yojik と wanda『ナイトレイン』収録ジャイアントパンダのPV出演

<https://youtu.be/yZNNqFfFsWE>

10月 Cafe Muriwuiにてソロ公演《SOUP》開催

2021年 3月 Cafe Muriwuiにてソロ公演《砂の詩》開催

8月ツォモリリ文庫にて《月三草》展示会クロージングイベントに出演

参考映像

フォレストアートフェスティバル 2024

植樹地でのパフォーマンスより

https://youtu.be/Z2IOg_2yKZw



招聘アーティスト

安土早紀子（音楽家）

瀬戸内海にある人口 15 人の志々島に暮らす安土早紀子氏と、そこで生活を共にした町田紗記氏（画家）のユニットが制作したアニメーション作品「境界を飛びこえて」。その上映や、ライブペイント、音楽といったアート行為を通じて、動植物と人間の境界、生と死の境界を飛びこえ、私たちもいきものであること、いつか土に還ることを伝えます。それは私たちが直面している異常気象や人間同士の分断への一つの解となり、木を植えることからスタートした FAF の根本にある思想を体現します。

また、安土が主導する 8 組のアーティストとの共同作品「死の絵本」の原画展を開催します。（詳細 P13）

安土早紀子

瀬戸内海の志々島に在住。うたをうたっている。美術家とのパフォーマンスコラボレーション多数。

浅井裕介（金津創作の森美術館 2024）、水川千春（はじまりの美術館 2024）ほか



上映するアニメーションの一部



ライブパフォーマンス映像



↑安土早紀子、町田紗記のライブパフォーマンスより抜粋

招聘アーティスト

ツェリング・ユードル、ジャミヤング・ナムギャル、チェマツト・ドルジェイの3名は、2025年4月に来日し、遊牧民と家畜、野生動物との濃密な関係性を、イマジネーションあふれる絵画作品を通じて伝えました。近代化とともに故郷のラダックでも徐々に失われつつある遊牧民の感性を、壁画にして伝えます。その壁画の中で、近年激減している遊牧民の方のお話に耳を傾けるパフォーマンスを開催する予定です。

ツェリング・ユードル Tsering Youdol 美術家 1996年、マトー村生まれ。幼少より父が絵を描く姿を見て育つ。水彩絵具と手漉き紙を用い、ラダックの人々、特に遊牧民の暮らしに魅力を感じ、彼らの肖像画を多数描いてきた。レー空港や政府機関周辺の壁画も手がける。ビジュアルアーツの修士号を取得後、ヒマーチャルプラデーシュ州セントラル大学にて同博士課程に在籍。植物や鉱物など天然顔料を使った実験的な制作にも取り組む。

ジャミヤング・ナムギャル Jamyang Namgail 美術家 1995年生まれ。ラダックのチャンタン高原で遊牧民の家族に生まれる。誕生はヤクのテントの中だった。遊牧民が暮らす標高4000mほどの自然環境、仏教文化をインスピレーションの源とし、遊牧生活に欠かせない手作りの品々、たとえば羊毛の織物、ヤク毛のテント、精巧な手工芸品、楽器が作品に登場することが特徴である。遊牧民と自然との親密で調和した関係を伝えることをライフワークとする

チェマツト・ドルジェイ Chemat Dorjey 美術家 1989年、ラダック、サクティ村出身。バラナシヒन्दゥー大学ビジュアルアーツ学部大学院で彫刻修士号を取得。在学中より数々の賞を受賞。ラダックに戻り、現代アーティスト第一世代として、専門である彫刻の領域を拡張し、ラダックの歴史、遺産、文化に宿る美しさを金属、糸、ペーパーマッシュ、顔料など多様な素材を用いて表現し、独自の世界観を創り出し、国内外で注目を集める。2017年レー旧市街に スピンドルアートスタジオ&ギャラリー を設立。



ツェリング・ユードル



チェマツト・ドルジェイ



ジャミヤング・ナムギャル

招聘アーティスト

内田英恵（ドキュメンタリー映像制作）

ドキュメンタリー作家として独自の視点で現代の表象を捉えている内田英恵氏は、FAFに興味を持ち、単に記録映像を撮ることにとどまらない、環境問題や社会問題の観点から独自のアプローチをし続けています。2024年のドキュメンタリー映像を完成させたあとも、2025年度に来日し「ラダック遊牧民の視展」で作品を発表したラダックアーティストの言動を追い、さらに、今年度のFAFの継続的な撮影と映像制作発表に意欲を燃やしています。

1981年東京生まれ。専門学校にて映像、写真、デザイン、ウェブなどのマルチメディア・アートを学んだ後、2002年に渡米。The Art Institute of California-Los Angelesにて更に映像と写真を学びながら映画・映像制作の現場に参加。帰国後制作会社に入社、長編映画を始め、ドキュメンタリー、ミュージックPV、TVコマーシャル、企業VP、記録映像、ライブDVD、映画特典DVDなど大小様々な作品に携わる。他に業務として洋画の買い付け、映画企画・脚本などの日英翻訳も担当。5年の勤務を経て2011年に独立。代表作に『世界は布思議～布のおはなし～』シリーズ（後にWOWOW番組化）、長編ドキュメンタリー映画『あした生きるという旅』（SKIPシティアワード受賞他複数の映画祭にて受賞・入選）、他に『こども哲学-アーダコーダのじかん-』、短編作品『動かない体で生きる私の、それでも幸せな日常(短編)』など。

受賞歴

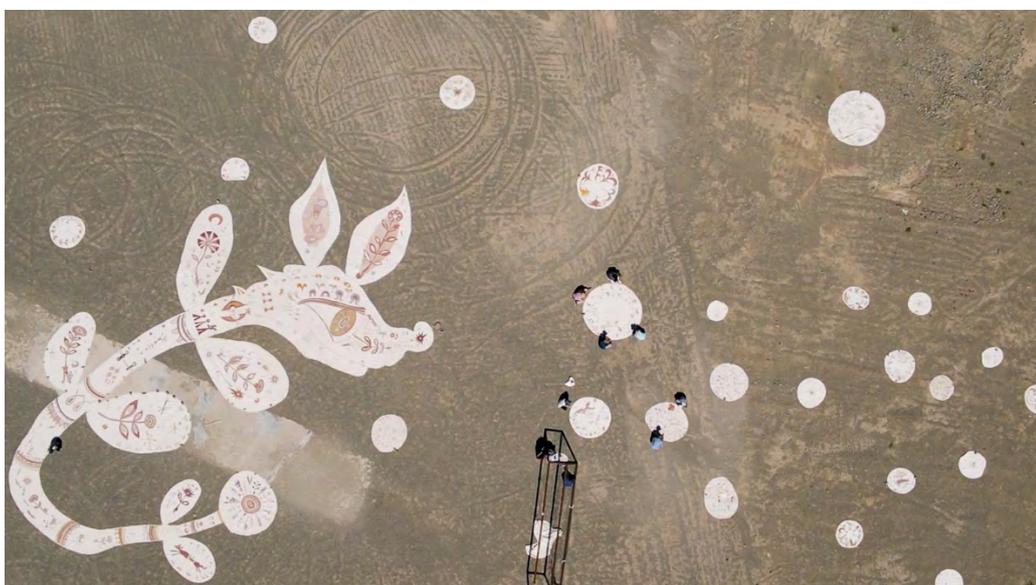
Yahoo!ニュース「ベスト エキスパート 2024」ドキュメンタリー部門グランプリ受賞(日本)
アラウンドフィルムズ国際映画祭 ベストドキュメンタリー受賞(フランス)

マトー村での展示作品

浅井裕介「大地の星座 風の王の使い」 FAF2024



浅井裕介「大地の星座 土の王の使い」 FAF2024



浅井裕介「大地の星座 水の王の使い」 FAF2024



富松篤「導きの森」 FAF2024



富松篤「見つめる山」 FAF2024



香川大介「またここへ還る」 FAF2023



香川大介「人の巻」 FAF2024 4m の絵巻物



ワイエダ兄弟「Little things」 FAF2024



小栗千隼「ワイルドローズ」 Earth Art Project 2017



LAMO (Ladakh Arts and Media Organisation) での展示作品

浅井裕介「壁画」2017 地元のアーティストをはじめとした 20 人とのワークショップで制作



「死の絵本展」

町田紗記と安土早紀子によるスピノフ展。町田&安土ユニットによるアニメーション「境界を飛びこえて」を LAMO でも上映します。そして、安土の死生観を表現した言葉に、8 組のアーティストが絵を描き絵本にする「死の絵本」の原画展を開催します。展覧会開催中、死の絵本のことばに沿った小栗千隼氏によるライブペイントも実施します。

[死の絵本参加アーティスト]

浅井裕介、大小島真木、香川大介、コタケマン、はまぐちさくらこ、町田紗記、水川千春、ウィエダ兄弟

フォレストアートフェスティバル 2024 ドキュメンタリー映像

<https://youtu.be/RqR8e9GE3-I?si=LZa3QSKO6u5ODKtU>



共催団体 LAMO (Ladakh Arts and Media Organisation) について

1996年、モニシャ・アフメッドとラヴィナ・アガルワルがラダックの芸術と文化を学び、創造し、関わることのできる拠点としてLAMOを設立。LAMOは、レーの旧市街に残っていた歴史的な建築物を伝統的手法に則り改修したアートセンターを拠点とする。人々がラダックの芸術と文化を学び、創造し、関わることのできる環境づくりに取り組む。アーティスト・イン・レジデンス、展覧会、上映会、講演、パフォーマンス、ワークショップ、研究、記録活動を通じて、ラダックにおける芸術活動を主導する存在である。また、センターの図書館、映像アーカイブ、地域の知識資源を通じて、ラダックの歴史的・文化的資料に関するオープンデータベースを構築する。シルクロードの一部であったラダックに暮らす多様な背景をもつ人々同士が、また、インド本土、国外からの旅行者がつながり、グローバルな文脈の中で芸術へのより深い理解を促す場として機能している。

[受賞歴]

2018 ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保存賞において「優秀賞 (Award of Distinction)」受賞

2019 「ベスト・イン・ヘリテージ」会議(クロアチア)において「Project of Influence」受賞

FAF2024 メディア掲載参考資料

NEWS18 <https://youtu.be/xA6ZM2xIaow?si=XPR5o7rvSbaFb1wf>

Reach Ladakh https://youtu.be/_r5-DfCKKBU?si=cy_M_mkGvUN5z6P

再生回数合計 13896回(2025年11月30日現在)

Japan × India Ladakh

木を植えることから始まった芸術祭

フォレストアート フェスティバル

2026 FAF2026

木を植える、芸術祭をつくる
ボランティアクルー募集！

【会場】インド、ラダック・マトー村

【集合・解散】ラダック、レー空港

【ラダック滞在日程】

●1陣 5月24日～29日 5泊6日 ●2陣 6月2日～9日 7泊8日

*飛行機の関係で前後にデリー泊が必要です。日程の詳細は裏面参照のこと。

【芸術祭公開日】6月6日(土)・7日(日)

【主催】NPO法人ウォールアートプロジェクト 【共催】LAMO (Ladakh Arts and Media Organization)

【協賛】貝印株式会社 ポーラスター株式会社 有限会社ブルーベア ツオモリリ文庫



web
page



FAF
2024
映像



Forest Art
Festival



展示作品(一部)



富松篤「ヤク 導きの森」L 300cm×H 195cm×D 110cm 流木



ウィエダ兄弟「Little things」L 7m×H 2.8m 水性絵具



浅井裕介「大地の星座(風の王の使い)」L 280m×H 130m 日干しレンガ、石灰



香川大介「またここへ還る」L 90cm×H 180cm×7枚 アクリル絵具

FAF2026 で作品を発表する参加予定のアーティスト

チーム浅井裕介、富松篤、おぐりちはや、安土早紀子、花田千絵子、ラダックアーティストチーム 内田英恵(ドキュメンタリー映像)



おぐりちはや



安土早紀子



花田千絵子

渡航スケジュール

ラダック、レー空港集合、解散

* 日程を合わせてグループ行動も可能です。その場合は下記の日程になる予定です。

1 陣 2026年5月23日(東京発、インド・デリー行き)~30日(デリー発、31日朝東京着)

2 陣 2026年6月1日(東京発、インド・デリー行き)~10日(デリー発、11日朝東京着)



参加費・日程
の詳細

FAF 作戦会議室

参加を考えるみんなでミーティングをします。ラダックを知るための映像鑑賞や、ラダックの人たちとオンラインで繋がりながら、理解を深め、より有意義な滞在制作を目指します。

会場 ツォモリリ文庫 調布市仙川町1-25-4(オンライン参加も可能)

●第一回 2月7日(土) 18:30~ ●第二回 2月23日(月・祝) 18:30~

●第三回 3月28日(土) 18:30~ ●第四回 4月18日(土) 18:30~

●第五回 5月9日(土) 18:30~

FAFのあゆみ

2023年「フォレストアートフェスティバル~プロローグ」

6100本のヤナギとノバラの木をマナー寺院の敷地「フォレストアートランド」に植樹。画家の香川大介、スギサキハルナ、ラダックアーティストたちが大地を舞台に作品を制作。日本とインドからボランティア約10人が参加。

2024年「フォレストアートフェスティバル2024」

植樹地を見守るように6組のアーティストたちがラダックのアーティストたちとタッグを組み、地上絵、流木の彫刻、壁画など渾身の大作を制作。日本からのボランティア約30人が参加。

2026年「フォレストアートフェスティバル2026」開催予定

日本とラダックのアーティストもボランティアも同等に知恵を絞り、一人ひとりが、2回目となる芸術祭をより良い形で成功させていくクルーとなります。

ラダックの森づくりに参加する「My Tree サポーター」募集!



My Tree
詳細

気候変動の影響をダイレクトに受けているラダック地方。氷河が目に見えて後退し、地下水脈が変化し、代々続けてきた遊牧や農業の生業が危機に直面しています。森づくりでCO2を削減し、地下水脈を育むプロジェクト。日本にいながら、世界のどこかにいながら FAFの重要なプログラム、森づくりに参加しませんか?

サポーター登録費: 1本 5000円

特典: ①ご希望の名前やニックネームをセラミックプレートに描き、木の根元に設置。
②WEBサイトにお名前の記載。

費用の使途: 補植の苗木代、点滴灌漑システムの管理費、木々のメンテナンスをする管理者への謝礼

問い合わせ

ボランティアクルーとして参加、FAF 作戦会議室に参加、My Tree サポーター登録、その他お問い合わせは、右記のEメール、もしくは電話にてご連絡ください。

wallartproject2010@gmail.com

03-6338-1469

(金土日月12:00~18:00)

ツォモリリ文庫内 担当・浜尾)